

## 【22\_176技術系メルマガ】売り、買いの『目線判断』に迷ったときは

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

僕の現状のトレードのやり方だと、まずは『短期足のセットアップ(MA収縮+3波)』を確認し、監視通貨を絞る。

そして、1波確認後の方向に沿って『目線』を決めていく(上の時間足へのおうかがい)という手順で分析をするのが基本動作です。

ただ、実際取り組んでいる人の中には「どうしても目線が最後決めきれない(迷う)」という人も多いです。

今回はそんな人のために、考え方を一つ提示したいと思います。

□  
└─ ■ 何処まで行っても最後は『自分で決める』しかない

サブタイトルが身もふたもない感じで申し訳ないのですが、先の値動きを予知できるわけではない以上

これはどうしても避けられない問題なのです。

トレードする以上、出来る事なら「勝って終わりたい」と思うのが当然なのですが

「勝ちたい」と望んで勝てるのであれば、誰でもそうしたいと思うでしょう。

実際は、自分の望む方向とは違う方向で値が動くことが多いですし、エントリーした瞬間に後ろから見られていたのか？

という位、逆行しまくるといふ哀しい経験をした人も多いと思います。

だからこそ、大事なのは自分の『一貫した判断軸に基づいて“決める”』ことなのです。

いつも同じ判断基準で決めた結果に沿ってトレードする中で、勝ったり負けたりを繰り返しながらも

最終的に『利益が残る仕組み』を作るのが『型＝トレードルール』です。

けっして、相場を攻略する「必勝法」を作るのが目的ではない事は念頭に置いておきましょう。

では、ここで話を戻しますが

そうはいつでも、『目線』を決めるための判断基準はやはり必要ですよ。

そこで、僕の基準での話になりますが、先ず目線を決める為に必要な考え方(認識力)を鍛えるちょっとした訓練方法を共有します。

まず、このチャートを見てください。

▼USDJPY H4足チャート▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/chart/2022-06-25.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-06-25.png)

『デイトレ講座』のメルマガでも過去のメルマガでも何度か説明をしてきましたが

『セットアップ』の確認は、M15足以下の短期足で行うのに対し

『目線』の確認は、H1足以上で行うのが基本です。

そして、『目線』を決めるときに最も重要な基準のひとつは

【セットアップ方向にトレードしようとしたときに、邪魔が無い(少ない)こと】です。

では、このドル円チャートにおいて、『邪魔が少なく、空間が広い』のはどちらの方向だと思いますか？

次のリンクに、僕の目線とその根拠を簡単に整理しているので

確認する前にちょっと自分の頭の中で考えてみてください。

…では、僕の『目線』を簡単にですが説明します。

▼クロの『目線』▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/chart/2022-06-25\\_2.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-06-25_2.png)

元より、H4足で見るとV字での大きな上昇が起こったものの

高値を更新する手前で揉み合いを作っており、ここからロングを撃つのはちょっと怖い。

なので、基本的には『ショート目線』で固定したいところですが

H1足を見ると、直下に邪魔なMAの束が走っているので、少なくともここを強く下抜ける『1波』をセットアップと共に確認したい状況。

と、こんな感じですね。

このように、『現状のプライス』に対して『水平線』と『MA』との位置関係を考慮して

『どちらに向かってトレードをしたいと思うか』を自分の基準に基づいて決めることが

『目線』を判断する、ということです。

この分析を行ったのは、6/21なので今から4日程前になりますが

自分がショート目線で見ているからと言って、実際の相場がその通りに動くかというところまでは分かっていません。

『値動きを言い当てることが目的ではない』というのは、そういう意味です。

自分が決めた『目線』方向に対して、ある程度想定した通りに動いてくれるのならトレードをするし、そうでないのなら見送る。

結局、『自分の決めごとに従う』ことが重要になるので、まだ迷ってしまうという人は

一早く自分の中に『基準』を作ることを目標として、トレードスタイルの確立に努めて貰えればと思います。

講座やサロンでは、この辺の各論を具体例を交えつつ議論したり、個別の相談に乗りながら  
各々のスタイル創りのお手伝いをさせて貰っている感じですが。。。

今回の話をヒントにして、個々に頑張ろうと思っている方は

先ず今回のドル円の事例のように、自分の『目線』を決めてから

その後の値動きとの違いを比較して、データを集めるという作業を丁寧にやってみてくださいね。